

白岡市立歴史資料館運営指針

令和6年4月

白岡市教育委員会

目次

はじめに	1	III 企画展示	8
I 歴史資料館の使命と目標	2	1 企画展示の方針	8
1 当館の使命について	2	2 企画展示のテーマ例	8
2 事業の基本目標	2	(1) 考古	8
(1) 郷土の歴史文化の特徴を反映する展示	2	(2) 民俗	9
(2) 文化財の適切な保存・管理	3	(3) 歴史	9
(3) 理解しやすい情報発信による学びと 交流の提供	3	(4) その他	10
(4) 市民や関連団体等との連携・協働の促進	3	(5) 季節展示	10
II 常設展示	4	(6) 周年記念	11
1 常設展示の展示方針	4	IV 教育普及事業	12
2 展示コーナーの区分	4	1 教育普及事業の方針	12
3 各展示コーナーの概要	4	2 教育普及事業のテーマ例	12
(1) 原始 暁を生きる	4	(1) 対象別事業	12
(2) 古代・中世 礎を築く	5	(2) 形態別事業	12
(3) 近世 村々を拓く	5	(3) Web ミュージアム	12
(4) 近代・現代 発展を遂げる	6	V 資料収集、調査研究の方針	13
(5) 未来 明日を創る	6	1 資料収集の方針	13
4 展示替え	7	2 重点的に収集すべき資料	13
(1) 日常的展示替え	7	(1) 歴史学的分野	13
(2) 計画的展示替え	7	(2) 民俗学的分野	13
(3) 資料収集を視野に入れた展示替え	7	(3) 美術工芸分野	14
5 展示図録	7	3 調査研究の方針	14
		(1) 資料に関する調査研究	14
		(2) 博物館活動に関する調査研究	14
		(3) 調査研究活動成果の情報発信	14

はじめに

白岡市の教育・文化・スポーツの振興について、第6次総合振興計画では、「次代を担う人と豊かな文化を育むまち」を政策目標としています。

これを受けた、第3期教育振興基本計画では、その基本理念を「学び楽しむまちづくり～次代を担う人と豊かな文化を育む～」とし、市民一人一人が生涯にわたって様々な機会と場所で学び楽しむことができるまちを目指しています。

このなかで、歴史文化に関する施策の方向性としては、郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進を掲げ、「白岡市文化財保存活用地域計画」に沿って、4つの課題と4つの指針、さらに具体的な取り組みの方向性が示されています。

① 文化財の総合的把握の促進

これまで文化財分野ごとに行われてきた調査活動の精度を高めるとともに、行われてこなかった分野の調査活動を推進します。調査対象の多角的な検討や、調査成果の分野横断的な検討を行い、文化財の総合的な把握に努めます。

② 歴史文化の保存と継承

文化財の確実な保存と継承のために3つの取組を推進します。1点目として、文化財の管理と適切な伝承活動、2点目として、文化財に関する防災・防犯活動、3点目として、文化財保護のための体制整備です。

③ 歴史文化の情報発信・普及活用の充実

文化財の調査成果の速やかな公表はもとより、理解しやすく親しみやすい情報発信や、利用者が必要な情報を手軽に得られるように努めます。講座の内容、展示資料の情報など、様々な情報をデータベース化して整理すると同時に、歴史資料展示室の充実や文化財を活用した様々なイベントの開催、また観光協会などと連携した新たな普及活動に努めることで、市民の郷土の歴史文化に対する興味関心を深めます。

④ 市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用

特色ある伝統行事を発掘し、正しく評価し、後世に伝えるために、地域の行事を地域で支える仕組みづくりを促進します。「白岡遺産」制度をその中核として、市民が主役となりうる文化財保護の仕組みづくりを促進します。

また、地域が主体となって行う取組を地域の事業者、企業などが支援し、相乗効果の上がる新たな取組の創造や、同様の活動に取り組む団体同士のネットワーク化を促進し、支えあいの仕組みづくりを支援することで、市民や地域団体が主体的に文化財を守り伝えていく提案型の文化財保護の仕組みづくりを促進します。

これらの施策の方向性に則って、白岡市立歴史資料館を運営してまいります。

I 歴史資料館の使命と目標

博物館、資料館の運営に関しては、博物館法（昭和26年法律第285号）第8条の規定に基づき、博物館の設置及び運営上の望ましい基準（平成23年12月20日文部科学省告示第165号）が示されており、この中で「博物館の使命と方針」や「博物館の目標と評価」等の策定及び公表に努めるよう規定されています。

市民を始め関係機関の信頼を得て、展示や普及活動を円滑に進めるためにも、施設としての活動方針を積極的に公表するとともに、事業内容の評価に関しても公表することが必要です。

1 当館の使命について

白岡市立歴史資料館は、白岡市教育振興基本計画に沿って策定した、白岡市文化財保存活用地域計画に掲げた4つの指針の具現化を目指します。

このため、市民共有の貴重な財産である地域の文化遺産の調査・研究に基づく収集・保存・管理・活用を包括的に行い、さらに市の内外に向けて、当市の歴史や伝統文化を発信するとともに、次代へ継承する拠点として次の4項目を使命とします。

4つの指針に基づく4つの使命

1 郷土の歴史文化の特徴を反映する展示

郷土の歴史文化を多角的に調査するとともに、その特徴を総合的に把握し展示することで、白岡の魅力を引き出します。

2 文化財の適切な保存・管理

文化財の適切な保存と管理により、貴重な文化遺産や先人の知恵を未来に引き継ぎます。

3 理解しやすい情報発信による学びと交流の提供

理解しやすく親しみやすい普及事業や情報発信に心掛け、郷土の歴史文化を知る知の拠点として学びと交流を支えます。

4 市民や関連団体等との連携・協働の促進

市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用を進め、地域の文化財を地域の手で守る活動を促進します。

2 事業の基本目標

(1) 郷土の歴史文化の特徴を反映する展示

① 調査活動

分野ごとの調査精度を高めるとともに、分野横断的な視点を持って総合的な文化財把握を進めます。

② 常設展示

当市の歴史文化の特徴をとらえた展示や時間経過のわかる展示を提供するとともに、市民が当市の歴史文化を正しく理解し、ふるさと意識を醸成することを促します。

③ 企画展示・特別展示

当市の魅力ある歴史・文化を個別のテーマごとに深く掘り下げ、地域に関する理解を促す展示を提供します。

(2) 文化財の適切な保存・管理

① 素材に即した収蔵保存

資料の特性を十分に把握し、常時適切な保存及び管理環境下に置き、市民共有の財産の末永い伝承に努めます。

② 資料の活用を前提とした資料整理

収蔵庫の計画的で効率的な運用を図るとともに、収蔵資料の検索や閲覧の利便性を高めるよう努めます。

(3) 理解しやすい情報発信による学びと交流の提供

① 多様な学習メニューの提供

歴史や伝統文化の理解促進のため、対象に応じた多様な学習メニューを提供するとともに、図書館や学校を始め様々な機関と連携しながら効果的な教育普及活動に努めます。

② 多様な情報発信

収蔵資料を始めとする文化財のデジタル化を推進し、歴史や文化に関する多様な情報発信に努めます。

③ 図書館と連携したレファレンスサービス

児童生徒を始めとする市民の地域学習を支援するため、図書館と連携した地域学習の拠点機能を担います。

(4) 市民や関連団体等との連携・協働の促進

① 「白岡遺産」制度の普及促進

特色ある伝統行事を始め、市民が伝えたいと思う歴史文化を正しく評価し、後世に伝えるために、地域の文化財を地域で支える仕組み作りを促進します。

② 地域社会総がかりでの文化財保護

文化財の所有者(管理者)はもとより、学校、地域、地元企業、行政などが一体となって地域歴史文化の保存・活用を進めるための仕組みや組織作りを支援します。

Ⅱ 常設展示

旧石器時代から近・現代に至るまで、白岡の大地を生き抜いた人々の暮らしを、いくつかの画期ごとに大きく括り、画期を代表するエピソードを紹介しながら概観します。

当市の歴史文化の特徴をとらえた展示や時間経過のわかる展示を提供することで、観覧者が当市の歴史文化を正しく理解し、ふるさと意識を醸成することを促します。

一方、時代を超えて通奏低音のように流れるテーマとして、水とともにあった人々の暮らしに着目しました。飲み水はもちろん、食糧の煮炊きなど、生きる上で必要な「水」、河川や海などの環境を取り巻く「水」、災害、恩恵、祭礼、争い、交通など、時代とともに様々な場面で「水」とともに歩んできた人々の暮らしに焦点を当て、ふるさとの歴史と風土を描き上げました。

1 常設展示の展示方針

展示方針

- ・解説文は平易な言葉を用い、長大にならないよう配慮します。
- ・展示資料は、適切な資料数とし補助資料の充実を図ります。
- ・各コーナーにコラム解説等を付し、背景の理解促進に努めます。

2 展示コーナーの区分

白岡市の歴史文化の特徴に鑑み、以下の5つの展示コーナーを設けました。

- (1)原始 コーナータイトル:暁を生きる
- (2)古代・中世 コーナータイトル:礎を築く
- (3)近世 コーナータイトル:村々を拓く
- (4)近代・現代 コーナータイトル:発展を遂げる
- (5)未来 コーナータイトル:明日を創る

各展示コーナーには、そのコーナーを象徴するワンフレーズのタイトルをつけ、各期の概要理解を助けるよう配慮します。

古代については、中世期に大きな勢力を持つ鬼窪氏の土着にかかる背景や時期を考慮し、中世と組み合わせました。

また、当館のオリジナリティを出すために、最終コーナーとして「未来」を描くコーナーを設けました。このコーナーについては、複合施設であることのメリットを発揮するために、東西のエントランスをつなぐ通路に面した壁面を利用し、児童生徒の絵画で未来の白岡を描くこととします。なお、この絵画は、市内の学校の協力を得て毎年展示替えを行います。

3 各展示コーナーの概要

(1)原始 暁を生きる

旧石器時代から古墳時代までを一括して展示します。

① 旧石器時代

白岡市域における良好な旧石器時代遺跡の調査事例は多くありません。断片的な資料と言わざるを得ませんが、それらを組み合わせながら旧石器時代の概観を示せるよう配慮します。

② 縄文時代

市域に残された86か所の遺跡の半数以上から縄文時代の人々の生活の痕跡が見つかります。この中には、縄文時代の各時期の様相をよく示す良好な遺跡や調査事例が複数あることから、これらを適切に使用しながら縄文時代の特徴や地域の特色を生かした展示とすることを心掛けます。

また、様々な視点からの展示が可能であることから、展示替えの時期等を見計らって、展示資料のローテーションや、展示内容の見直しに配慮します。

③ 古墳時代

市内では、弥生時代の遺跡や遺物は未検出ですし、古墳時代の高塚墳墓である「古墳」も確認されていませんが、これも白岡の歴史文化の特徴の一つであるにとらえれば積極的な展示に結び付けることができます。

古墳時代の集落では、当時の生活用具がセットで見つかることがあるため、縄文土器のように1個体の充実ぶりを見せる展示よりもバラエティを見せる展示に配慮します。

また、米を食す生活文化を軸とすることで、今日との比較がしやすいように配慮します。

(2)古代・中世 礎を築く

① 奈良・平安時代

精錬^{せいれん}工房跡が見つかった篠津の中妻遺跡など、情報量の多い遺跡を中心に、産業や流通、その後の鬼窪氏の土着などとのつながりに着目し、日川や荒川など地域の自然環境や地理的環境等との関連を踏まえた歴史文化を展示できるよう努めます。

② 鎌倉・室町・安土桃山時代

平安時代末期に、中妻遺跡周辺に土着したと考えられる野与党鬼窪氏の足跡を中心に、周辺の諸勢力や関東圏など市域を超えた一定の広がりの中での市域の状況などを、観応の擾乱に係る古文書(日高市・町田家文書)や、『空華日用工夫略集』、「鬼窪」の文字の残された2つの鰐口(鬼窪八幡宮鰐口・聖天院応仁鰐口)など、多様な資料を駆使しながら展示を構成するよう配慮します。

(3)近世 村々を拓く

① 江戸時代—支配関係—

江戸時代になり、各村々の体系的支配が確立すると、野牛村の領主新井氏や白岡村の領主川副氏、荒井新田村の領主南条氏など、領主と領地との結びつきを示す記録類も比較的残されるようになります。こうした資料を始め、近世期の具体的な状況を

展示に反映するよう配慮します。

② 江戸時代—新田開発・治水—

江戸時代中期以降活発化する新田開発に伴って整備された多数の用・排水路や、勾配の緩い土地柄を反映して形成された水路同士や河川との立体交差などは地域の大きな特色の一つです。

また、洪水などに伴う湛水と排水にまつわる「水争い」などに伴う争論と裁許にかかる絵図などの資料も、観覧者の関心をひく資料として活用します。

③ 江戸時代—鷹場その他—

市域各地の近世のトピックを展示に反映します。

例えば上野田村に伝わる短筒火縄銃は、銃の鑑札、銃借用の背景や地域の状況などのわかる古文書とともに伝えられ、「御捉飼場」の管理に当たった村方の状況をうかがい知ることができる資料です。鷹場を描いた絵巻などとともに展示することで当時の風景などを含め理解を助けます。

(4)近代・現代 発展を遂げる

① 明治時代

明治の大合併によって、市域には大山、篠津、日勝の三村が成立しました。町村合併は、自治体としての白岡市の沿革を知るうえで重要なポイントとなりますので、昭和の合併を含めて正確に展示するよう心掛けます。

② 大正・昭和時代(戦前)

大正から昭和にかけての市域の歴史を紐解くとき、日勝村長の渋谷塊一の村政運営は重要です。昭和恐慌からの脱却を目指して「経済更生五カ年計画」の実施や愛育村指定など先進的な施策を推進し、村政の改革や発展に尽くした状況等を展示に反映させます。

③ 水害と梨

埼玉県東部低地は、度重なる水害に苦慮してきました。特に明治 43 年の大水害は規模の大きなもので、今でも当時の様子を語り継ぐ人々がいるほどです。

明治 43 年の大水は、甚大な被害をもたらした一方で、今日に伝わる大きな恵みももたらしました。それが梨栽培です。梨栽培の歴史や流通のほか、民俗資料等を活用し、多角的に展示します。

④ 白岡町の誕生

昭和の大合併による白岡町の誕生、旧庁舎の落成、サッポロ農産加工、新白岡駅の開設、市制施行などのトピックは、それらを担ったたくさんの人々によって支えられてきました。言い換えれば現代白岡の礎を築いた多くの人々の流した汗の結晶だといえます。これらをコラージュ風に概観し、写真とキャプションで物語る展示とします。

(5)未来 明日を創る

展示を総括し、郷土の歴史を守る意識を醸成するとともに未来へつなげる明るさを強調する展示を児童生徒の絵画で表現します。

4 展示替え

常設展示は、展示方針に基づき一定期間同様の展示構成をとるものですが、展示資料の特性その他の要因から定期的に展示替えを行う必要があります。

(1) 日常的展示替え

紙、布など素材の脆弱な資料や彩色資料、漆器など退色や温・湿度管理に配慮が必要な資料のように、展示資料の性質上、長期間の継続展示に耐えないものもあります。日常管理の中で、常に資料の状態を把握しておくと同時に、展示構成を損なわないよう配慮しながら展示資料のローテーションを行うことが必要です。このため、複数の展示替え用資料を用意しておくことが求められます。

(2) 計画的展示替え

長期間にわたって展示の更新が行われない状況が続くことは、来館者の学習意欲をすぐ結果を招くことにもつながることから、常設展示といえども計画的な展示替えが必要です。数年単位の間隔での、展示資料の入れ替えや、展示コーナー単位での模様替えを行うことで、館蔵資料の活用や来館者の興味を引く展示につながります。

また、解説内容の劣化や展示構成、展示資料を見直す必要も想定されることから、10年から15年程度を目安に全体的な展示リニューアルを行うことが必要です。

(3) 資料収集を視野に入れた展示替え

あらかじめ、定期的な展示替えを前提として、季節展示コーナーや新収蔵資料の展示コーナーなどを設けることで、市民からの資料の提供を促す仕掛け作りを行います。市民の関心を引く展示に配慮することで、潜在的な資料発掘の効果も期待できます。

市民の関心を引く展示が市民からの資料提供を呼び起こし、その資料が展示されることにより、資料館の存在をより身近に感じてもらうという好循環が生じ、その輪が次第に拡大することで市民の文化財愛護思想の向上につながります。

5 展示図録

常設展示、企画展示の理解を助けるために、展示図録を刊行します。図録は、見やすく理解しやすいよう写真や図表を活用するよう努めるとともに、インターネット等を活用した普及に配慮します。

Ⅲ 企画展示

常設展示は、市の歴史を学ぶ上での時間軸となるよう通史展示を基本としています。これに対して、企画展示は、テーマを絞ってより深く掘り下げた展示を旨としています。このため、展示準備に時間がかかることも少なくありません。中長期的な計画を立てて十分な準備期間を確保するよう配慮します。また、回数は、年間1ないし2回に絞り、過剰な計画とならないよう配慮します。

1 企画展示の方針

企画展示の方針

- ・分野横断的で多角的な視点からの展示に配慮します。
- ・展示資料の魅力を引き出し、観覧者の興味を満たします。
- ・資料自体の新たな評価を促します。

2 企画展示のテーマ例

企画展示のテーマについて分野ごとにまとめて例示します。これらを融合させたり、分割したりして再構成することも可能です。

また、白岡市文化財保存活用地域計画に掲げた「白岡遺産」の考え方を広めるうえで、「白岡遺産」の文言を織り込んだ題名や副題を積極的に使うことも検討します。

(1) 考古

NO	テーマ	展示資料概要等
1	縄文時代の白岡	縄文時代の通史展示、土器、石器など生活生産用具、土製品、石製品など精神生活
2	器の歴史～縄文土器からガラス瓶まで～	土器の文様のバラエティ、変遷、縄文と弥生、土師器、須恵器、かわらけ、焙烙、ガラス瓶
3	中世の白岡	発掘調査資料（入耕地、中妻、神山、赤砂利）、伝世資料（鰐口、金銅仏）、板碑
4	鬼窪氏と白岡	入耕地館跡、南鬼窪氏館跡、中妻遺跡、鰐口（八幡宮、聖天院）
5	交流・交易	石器石材（黒曜石、ホルンフェルス、チャート、安山岩等）緑泥片岩、ヒスイ、土器
6	正福院貝塚の謎を解く	縄文前期の環境と暮らし、住居跡とムラ
7	清左衛門遺跡	縄文後晩期の集落、土器、石器、異形石製品、土製品、環状盛土、貝塚
8	祈りと呪（まじな）い	土偶、石棒、石冠、絵馬、仏、御札 棟札
9	道具の遷り変り	旧石器、縄文時代の石器（打製石器から磨製石器）、金属器
10	装身具の起源	タタラ山遺跡石製装飾品、土製耳飾り

(2) 民俗

NO	テーマ	展示資料概要等
1	絵馬に描かれた世界	大絵馬、小絵馬、奉納額、正伝寺奉納絵馬、諏訪八幡神社奉納絵馬
2	農(みのり)ある暮らし	掘り揚げ田、摘み田、梨、農間、農耕儀礼、農具
3	技を伝える	屋根屋、紺屋、大工、鍛冶屋、造り酒屋、建具屋
4	信仰	講、絵馬、石仏、供養塔、庚申塔
5	講	庚申講、観音講、念仏講、太子講、代参講、総参講、無尽講
6	口承伝承	昔話・伝説、世間話、地名伝承
7	儀礼～人生の節目～	誕生、産育、子どもの成長、一人前、成人・婚礼、葬送儀礼、年忌
8	装いの文化史	仕事着、晴れ着、履物、髪型、髪飾り、収納
9	交通の遷り変り	道路、往還、野良道、道しるべ、河川、舟運、河岸、渡し、橋、交通機関
10	春夏秋冬二升五合	行商、商品、市、篠津、橋戸、近隣の市・町場
11	祭と芸能	芸能(ささら獅子舞・神楽・お囃子)、祭礼(天王様、夏祭り、秋の祭り)
12	水の恵みと水の災い	漁労具、漁法、舟、水害、水塚、備蓄

(3) 歴史

NO	テーマ	展示資料概要等
1	中世の白岡	忠恩寺文書、大久保家文書、入耕地遺跡・南鬼窪氏館跡出土資料
2	江戸時代の白岡	支配関係、年貢、庄屋・名主
3	江戸時代の教育	私塾と寺子屋、往来物、教本
4	渋谷塊一と北原白秋	渋谷家文書
5	立川金禄	没後〇周年回顧展
6	新井白石と白岡	野牛久伊豆神社、観福寺、大久保家文書、白石様堀、郷倉、筑後様祭り、朝鮮通信使、折たく柴の記
7	白岡の歩み	市制施行〇周年記念展、近世の村々、明治の合併、昭和の合併、歴代首長
8	絵図に描かれた白岡	田口家、細井昇家、高岩
9	新田開発	彦兵衛新田、皿沼、柴山沼、用排水路の整備
10	平和の礎	戦後〇周年記念展、戦時資料(堀田家、斉藤家)
11	歴史の道	野与道、鎌倉街道、日光御成道、原市道、慈恩寺道、粕壁街道、篠津宿

(4) その他

NO	テーマ	展示資料概要等
1	人物伝	鬼窪氏、大野雅山、井沢弥惣兵衛、渋谷塊一、新井白石、山崎礼助、新井堯爾、立川金禄
2	山車彫刻	篠津山車彫刻、岡泉の山車彫刻、篠津の久伊豆神社社殿彫刻
3	おもちゃの歴史	おはじき、メンコ、コマ
4	顔	顔面装飾土器、土板、土偶、お面、人形、似顔絵
5	神社と寺院	白岡八幡宮、篠津久伊豆神社、野牛久伊豆神社、柴山諏訪八幡神社ほか 大徳寺、正福院、観福寺、青雲寺、忠恩寺、興善寺、全龍寺ほか
6	最新発掘調査報告	発掘調査速報
7	新収蔵資料	最新寄贈寄託資料
8	館蔵品	定期的な収蔵資料展示
9	我が家のお宝	市内諸家所蔵資料
10	着物	和服、洋服、晴着、野良着
11	郷土学習成果発表	小中学校の夏休みの自由研究のうち郷土学習をテーマとするものの成果発表
12	学校の歴史	市内の小中学校の歩み、教科書、教育関係資料

(5) 季節展示

NO	開催月	展示資料概要等
1	1月	正月行事、小正月行事
2	2月	節分、初午、雪
3	3月	雛祭り、卒業、彼岸
4	4月	花まつり、進・入学
5	5月	端午の節供、母の日
6	6月	田植え、サナボリ、梅雨、大祓、父の日、衣更
7	7月	初山、七夕、天王様、海
8	8月	夏休み、お盆、花火
9	9月	稲刈り、防災、菊の節供、彼岸、敬老の日
10	10月	体育の日、秋祭り、十日夜
11	11月	勤労感謝の日・新嘗祭、えびす講、オカマサマ
12	12月	冬至、年越し

(6) 周年記念

NO	年度	西暦	事項・周年等
1	6	2024	1924年・久喜乗合自動車 久喜・白岡間、白岡・春日部間営業開始 100周年、1954年・白岡町誕生 70周年
2	7	2025	1425年・高岩天満神社創建 600周年、1625年・徳川家光日光社参 400周年、1725年・新井白石没後300周年
3	9	2027	1727年・見沼代用水工事着手 300周年、1927年・南埼玉郡乾繭利用組合結成 100周年
4	10	2028	1628年・岩槻藩領検地 400周年、1828年・小久喜獅子連中記奉納 200周年、2018年・開館 10周年
5	11	2029	1909年・立川金禄生誕 120周年
6	13	2031	山崎礼助による皿沼開発 150周年、
7	14	2032	日勝村、大山村経済更生運動県指定 100周年
8	15	2033	寛永の地方直し400周年(旗本川副氏白岡村、大崎村領主に、南条氏柴山村、荒井新田村領主に)、大徳寺焼失700周年

IV 教育普及事業

展示を見るだけではなく、様々な体験学習や調査学習など、年齢や形態ごとに、多様な学習メニューを提供することで、展示の補完を行うとともに、学習者が、郷土の歴史をより身近により深く理解するための積極的な支援を行います。

また、学習サークルやボランティア活動の育成を行います。

1 教育普及事業の方針

普及事業 の方針

・会場、手法にこだわらず、学習者が能動的に学び、地域の歴史文化に触れることのできる学習機会の提供に努めます。

2 教育普及事業のテーマ例

(1) 対象別事業

中学・小学生・親子	・もの作りや体験型学習メニュー ・学校の授業にあわせた学習、見学会 ・図書館と連携した調べ学習への対応 など
高校・大学生・一般	・学習研究テーマに沿った資料検索や資料実覧 ・グループ学習会、史跡めぐり等への講師派遣 など
研究者・教職員	・研究内容に沿った資料提供、資料熟覧 ・教材研究・開発等への資料提供 など

(2) 形態別事業

体験型事業	・もの作りや体験活動を伴う事業：土器作り、勾玉作り、草木染 など
講座型事業	・教養型講座：特別展タイアップ講座、縄文講座、古文書講座、中世の白岡など ・ボランティア活動支援講座：資料館ボランティア養成講座、石造物調査ボランティア養成講座 など
成果発表事業	・主催する講座で学習した成果や学習グループ、ボランティアなどの調査研究成果の成果発表など
展示解説館内案内	・展示解説型事業：常設展示定期解説会、特別展展示解説会、バックヤード見学会 など

(3) Web ミュージアム

常設展示に展示していない資料や長期展示に耐えない性質の資料、諸家所蔵の指定文化財などを中心に、常設展示を補完する機能を持つ、文化財アーカイブとして重要な機能を担います。また、企画展示や普及事業の履歴を蓄積することで資料館活動のアーカイブ機能を併せ持たせることができます。

V 資料収集、調査研究の方針

資料の収集保存は博物館活動の根幹をなす事業と位置づけられ、調査研究、展示及び教育普及などの諸事業は、館蔵資料に支えられています。

地域資料館として、白岡にゆかりのある歴史、民俗、美術工芸などの分野の資料を、網羅的、系統的に収集することで地域研究の推進を図ります。

1 資料収集の方針

資料収集 の方針

白岡における人々の暮らしと文化に関わる歴史・民俗・美術（主に近世以前）資料を収集対象とします。

資料の受入基準

- 1 白岡市及び周辺地域にとって歴史上、重要な事件や人物に関わる資料
- 2 白岡市及び周辺地域にとって美術史上（近世以前）、重要な資料
- 3 白岡市及び周辺地域にとって重要な有形民俗資料
- 4 上記1～3にかかる系統だったコレクション
- 5 保存状態が良好な資料で、常設展や特別展・企画展に展示できる資料

2 重点的に収集すべき資料

(1)歴史学的分野

① 考古資料

・白岡及び周辺地域の人々の生活史を解明する上で重要と思われる考古学的資料。

② 古文書典籍

・白岡及び周辺の地域史を解明する上で重要と思われる古文書、古記録、典籍その他の資料。

③ 地図、図面類

・白岡及び周辺地域を記録したと思われる地図、図面類。

④ 写真、絵図類

・白岡及び周辺地域の風景、行事、生活その他を記録した写真、絵図その他の資料。

(2)民俗学的分野

① 梨生産を始めとする生産生業関連資料。

② 衣食住を始めとする生活関連資料。

③ 職人道具、商業関連資料。

④ 芸能、祭礼関連資料。

- ⑤ 儀礼、年中行事関連資料。
- ⑥ 交通・交易関連資料。

(3)美術工芸分野(主に近世以前)

- ① 作者、流派、題材、制作事情、所有者その他において、主に近世以前の白岡及び周辺地域にゆかりのある美術工芸品及びその関係資料。
- ② 立川金禄が制作した彫刻、絵画その他の作品及びその関係資料。

3 調査研究の方針

調査研究 の方針

地域資料や資料館活動に関する調査研究を進め、その成果を展示や普及事業に反映させるとともに、調査研究成果や地域文化の情報発信を行います。

具体的事業内容

- 1 白岡及び周辺地域における人々の暮らしと文化に関わる調査研究
- 2 教育普及、資料保存などの資料館活動に関する調査研究
- 3 調査研究成果の情報発信

(1)資料に関する調査研究

- ① 収集資料及び資料関連事項に関する調査研究。
- ② 白岡及び周辺地域に伝わる有形無形の伝統的文化遺産に関する調査研究。
- ③ 他市町村及び県立館その他の資料館博物館や文化財愛護団体など共同で行う調査研究。

(2)博物館活動に関する調査研究

- ① 教育普及事業に関する調査研究。
- ② 資料保存に関する調査研究。

(3)調査研究活動成果の情報発信

- ① 調査報告書の刊行。
- ② 研究紀要の定期的刊行。
- ③ 研究報告会の開催。
- ④ ホームページ等を活用した情報発信。